

報道関係者 各位

令和2年3月16日

【照会先】

医政局医事課試験免許室

試験専門官 大坪 真実(内線 2578)

国家試験係長 石原 寛人(内線 2574)

(代表電話) 03(5253)1111

### 第113回歯科医師国家試験の合格発表について

令和2年2月1日(土)及び2日(日)に東京都他7カ所において実施した第113回歯科医師国家試験の合格者を発表しました。今回の歯科医師国家試験の合格者数等は次のとおりです。

記

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,540人	1,995人	1,583人	79.3%
全体	3,798人	3,211人	2,107人	65.6%



## 第113回歯科医師国家試験の合格基準

第113回歯科医師国家試験の合格基準は、

一般問題（必修問題を含む）を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、

- |   |            |             |
|---|------------|-------------|
| ① | 領域A（総論）    | 65点以上／98点   |
| ② | 領域B（各論Ⅰ～Ⅱ） | 122点以上／167点 |
| ③ | 領域C（各論Ⅲ～Ⅴ） | 138点以上／210点 |
| ④ | 必修問題       | 64点以上／79点   |

但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にあつては、  
必修問題の得点について総点数の80%以上とする。

とする。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 33 問

33 初期の Alzheimer 型認知症で障害が生じやすいのはどれか。1つ選べ。

- a 嗅 覚
- b 視 覚
- c 聴 覚
- d 味 覚
- e 平衡覚

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。

( 理 由 )

設問と選択肢の関係が不明確で正解が得られないため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 35 問

35 妊娠後期の妊婦に対し、気道異物を排出させるために行う適切な対応はどれか。

1つ選べ。

- a 下顎挙上
- b 人工呼吸
- c 胸部圧迫法
- d ハイムリック法
- e 腹部突き上げ法

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。
-------------

( 理 由 )

選択肢が不適切であるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 56 問

56 32歳の女性。上顎左側臼歯部の咀嚼時痛を主訴として来院した。検査の結果、5に歯根破折を認めたため、抜歯後に④⑤⑥のブリッジを装着することとした。抜歯後の口腔内写真(別冊No. 13A)、支台歯形成後の口腔内写真(別冊No. 13B)及びブリッジ装着時の口腔内写真(別冊No. 13C)を別に示す。

全部金属冠と比較した本支台装置による治療の特徴はどれか。2つ選べ。

- a 保持力が高い。
- b 審美性に優れる。
- c 咬合支持が保たれる。
- d 浸潤麻酔が不要である。
- e 二次齲蝕になりにくい。

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。

( 理 由 )

問題として適切であるが、受験者レベルでは難しすぎるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

A 問題 第 81 問

81 17歳の女子。下顎左側臼歯部の痛みを主訴として来院した。検査の結果、智歯周囲炎と診断し、 $\overline{8}$ の抜歯を行うこととした。下顎孔伝達麻酔を施行後、やや多弁となり、その後けいれんを起こしたため、しばらく経過をみたがおさまらない。その時の生体モニタの画面(別冊No. 32)を別に示す。

行うべき対応はどれか。1つ選べ。

- a 酸素の投与
- b 鎮静薬の投与
- c 紙袋による再呼吸
- d 副交感神経遮断薬の投与
- e トレンデレンブルグ体位への変換

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。

( 理 由 )

複数の正解があるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

B 問題 第 62 問

62 67歳の女性。下顎義歯の破折に伴う咀嚼困難を主訴として来院した。診察の結果、残存歯と上顎義歯には問題がなかったため、下顎義歯の再製作を行うこととし、精密印象を採得した。初診時の下顎義歯撤去時の口腔内写真(別冊No. 16A)と作業用模型上で製作した装置の写真(別冊No. 16B)を別に示す。

次回来院時に使用するのはどれか。3つ選べ。

- a 適合試験材
- b フェイスボウ
- c 咬合平面設定板
- d シェードガイド
- e モデリングコンパウンド

( 採点上の取り扱い )

4通りの解答を正解として採点する。

( 理 由 )

4つの選択肢が正解であるため。



第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 11 問

11 良性腫瘍に比べて悪性腫瘍が生じる割合が最も高いのはどれか。1つ選べ。

- a 顎下腺
- b 口蓋腺
- c 口唇腺
- d 耳下腺
- e 舌下腺

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 14 問

14 2根管性の単根で、根管間をつなぐ連絡路はどれか。1つ選べ。

- a 側 枝
- b フィン
- c 根尖分岐
- d 根尖狭窄部
- e 根管イスムス

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

複数の正解があるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 16 問

16 ミールラウンドで食形態を選択するのに最も有用なのはどれか。1つ選べ。

- a 咀嚼能力検査
- b フードテスト
- c 嚥下内視鏡検査
- d 改訂水飲みテスト
- e 反復唾液嚥下テスト

( 採点上の取り扱い )

採点対象から除外する。
-------------

( 理 由 )

設問が不明確で正解が得られないため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 17 問

17 生後3週の新児の口蓋の写真(別冊No. 2)を別に示す。

考えられるのはどれか。1つ選べ。

- a 粘液嚢胞
- b Koplik 斑
- c Epstein 真珠
- d Bednar アфта
- e ヘルパンギーナ

( 採点上の取り扱い )

正解した受験者については採点対象に含め、不正解の受験者については採点対象から除外する。
---

( 理 由 )

問題として適切であるが、必修問題としては妥当でないため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 65 問

65 40歳の女性。全身麻酔下に下顎骨骨折に対する観血的整復固定術を行うこととした。2か月前から動悸と手の振戦を自覚している。血液学検査の結果の一部を表に示す。

遊離トリヨードサイロニン〈FT <sub>3</sub> 〉	: 6.78 pg/mL (2.5~4.3)
遊離サイロキシシン〈FT <sub>4</sub> 〉	: 2.46 ng/dL (1.0~1.8)
甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉	: 0.01 μU/mL 以下 (0.3~4.0)

( )内は基準値

使用を避けるべきなのはどれか。1つ選べ。

- a デキサメタゾン
- b ポビドンヨード
- c フェンタニルクエン酸塩
- d プロプラノロール塩酸塩
- e アドレナリン添加リドカイン塩酸塩

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。

( 理 由 )

複数の正解があるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

C 問題 第 70 問

70 25歳の女性。歯科検診で齲蝕を指摘され来院した。自閉スペクトラム症と診断されている。治療中に行ったある指導の写真(別冊No. 25)を別に示す。

この指導の目的はどれか。1つ選べ。

- a 系統的脱感作
- b 物理的構造化
- c フラッピング
- d ワークシステム
- e スケジュールの構造化

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。

( 理 由 )

設問が不明確で複数の選択肢が正解と考えられるため。

第113回歯科医師国家試験における採点除外等の取扱いをした問題について

D 問題 第 36 問

36 児童福祉法で規定されているのはどれか。1つ選べ。

- a 児童の健康診断
- b 児童相談所の設置
- c 未熟児の訪問指導
- d 低出生体重児の届出
- e 自立支援医療費の支給

( 採点上の取り扱い )

複数の選択肢を正解として採点する。
-------------------

( 理 由 )

複数の正解があるため。

歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第104回	平成23年2月5～6日	3,378 ( 2,356 )	2,400 ( 1,928 )	71.0 ( 81.8 )
第105回	平成24年2月4～5日	3,326 ( 2,311 )	2,364 ( 1,882 )	71.1 ( 81.4 )
第106回	平成25年2月2～3日	3,321 ( 2,373 )	2,366 ( 1,907 )	71.2 ( 80.4 )
第107回	平成26年2月1～2日	3,200 ( 2,241 )	2,025 ( 1,642 )	63.3 ( 73.3 )
第108回	平成27年1月31日～2月1日	3,138 ( 1,995 )	2,003 ( 1,457 )	63.8 ( 73.0 )
第109回	平成28年1月30～31日	3,103 ( 1,969 )	1,973 ( 1,436 )	63.6 ( 72.9 )
第110回	平成29年2月4～5日	3,049 ( 1,855 )	1,983 ( 1,426 )	65.0 ( 76.9 )
第111回	平成30年2月3～4日	3,159 ( 1,932 )	2,039 ( 1,505 )	64.5 ( 77.9 )
第112回	平成31年2月2～3日	3,232 ( 2,000 )	2,059 ( 1,587 )	63.7 ( 79.4 )
第113回	令和2年2月1～2日	3,211 ( 1,995 )	2,107 ( 1,583 )	65.6 ( 79.3 )

※( )内は新卒者を示す



## 歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

回数	受験者数(人) 男女比(%)	合格者数(人) 男女比(%)	総数		男女別合格者数		男女別合格率(%)	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性
第109回 (平成28年)	受験者数(人)	3,103	1,984	1,119	59.6	70.6		
	男女比(%)	(63.9)	(36.1)					
	合格者数(人)	1,973	1,183	790	61.7	71.0		
	男女比(%)	(60.0)	(40.0)					
第110回 (平成29年)	受験者数(人)	3,049	1,952	1,097	60.4	69.5		
	男女比(%)	(64.0)	(36.0)					
	合格者数(人)	1,983	1,204	779	60.0	70.7		
	男女比(%)	(60.7)	(39.3)					
第111回 (平成30年)	受験者数(人)	3,159	1,924	1,235	60.0	69.5		
	男女比(%)	(60.9)	(39.1)					
	合格者数(人)	2,039	1,162	877	60.0	69.5		
	男女比(%)	(57.0)	(43.0)					
第112回 (平成31年)	受験者数(人)	3,232	1,971	1,261	62.3	70.7		
	男女比(%)	(61.0)	(39.0)					
	合格者数(人)	2,059	1,183	876	62.3	70.7		
	男女比(%)	(57.5)	(42.5)					
第113回 (令和2年)	受験者数(人)	3,211	1,949	1,262	62.3	70.7		
	男女比(%)	(60.7)	(39.3)					
	合格者数(人)	2,107	1,215	892	62.3	70.7		
	男女比(%)	(57.7)	(42.3)					

第113回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次	受験可能回数	受験者数(人)	構成比(%)	合格者数(人)	合格率(%)
平成31年4月～令和2年3月	1回	1995	62.1	1583	79.3
平成30年4月～平成31年3月	2回	501	15.6	308	61.5
平成29年4月～平成30年3月	3回	256	8.0	119	46.5
平成28年4月～平成29年3月	4回	169	5.3	58	34.3
平成27年4月～平成28年3月	5回	94	2.9	19	20.2
平成26年4月～平成27年3月	6回	41	1.3	6	14.6
平成25年4月～平成26年3月	7回	32	1.0	5	15.6
平成24年4月～平成25年3月	8回	13	0.4	0	0.0
平成23年4月～平成24年3月	9回	12	0.4	1	8.3
平成23年3月以前	10回以上	98	3.1	8	8.2
計		1,216	37.9	524	43.1
総計		3,211	100.0	2,107	65.6